

地域に健康を語る

〈和歌山〉
有田病院
地域医療福祉部係長・
広報官
大向伸正



有田医療福祉センターの伊藤秀一総長は30年前から、地域のラジオ番組に出演を続け、

30年続けるラジオ出演。 健康情報の発信はライフワーク

幅広いテーマで健康のコツを伝えていきます。たとえば、WBS和歌山放送の「ラジオ健康相談」「健康ひとくちメモ」「あなたをまもる医療機器」など。「住民の健康増進につながる発信はライフワーク」と話す伊藤総長の取り組みを紹介します。

台本を用意し収録に臨む

最初のラジオ出演は1991年頃。当時は和歌山県立医科大学第2内科の講師に昇進したばかりで、「ニュース和歌山」という地域紙に、専門の消化器疾患のコラムを月一で連載中でした。「それを読んだWBS『ラジオ健康相談』のスタッフ・柘植義信さんから出演をオファーされたのです。最初はたしか『アルコールと肝臓病』がテーマでした」と伊藤総長は振り返ります。



「ラジオ健康相談」の収録中

ではありませんが、「漫画が楽しみ」と広報誌を心待ちにしてもらっている喜びが大きくて、励みになっています。

利用者さんに私たちの介護サービスを理解してもらおうと描き始めた漫画には、思わぬ効果も。漫画の内容を職員一人ひとりが意識し、自らの援助を振り返って「なでしこの訪問介護の目的は何か」を再考す



連載のきっかけとなったパンフレット



「胆石症」解説回のラジオブース（2022年6月28日から5日連続で放送）

度に収録します。伊藤総長は出演のたび、消化器疾患で頻度の高い病気を取り上げています。「例えば『お酒と病気の話』がテーマなら①お酒の種類とアル

コール度数②お酒の健康な飲み方③アルコール依存症とは？④お酒と病気の話、肝臓病だけではありませんよ⑤お酒と肝臓病——のシリーズであらすじを考えます」（伊藤総長）。それを台本のようにまとめ、進行役のアナウンサーと共有。質問や合いの手に答える形で収録はスムーズに進みます。

ラジオでは「専門用語をできるだけ使わず、分かりやすく話すことを一番大切にしている」と話す伊藤総長。

「それから時間順守と、急な出演リクエストも断らない配慮が大事。収録では秒刻みの時計を始終意識し、やり直しは一度もしたことはありません。赤井ゆかりアナウンサー、柘植義信さんは『ラジオ健康相談』をともにつくるチームメイト。時には年4回ほど出演し30年も続いているのは、互いの信頼関係があつてこそ」と述べています。

広報委員会・広報官は 済生会の全施設に設置を

多くの人が聴くラジオですが、数年前まで啓発効果はあまり感じていなかったといえます。



伊藤総長の啓発活動はラジオ以外にも。写真は有田医療福祉センターが毎年行なう「健康フェスタ」

「潮目が変わったのは、大向伸正広報官（筆者）が収録に同席し、手作りの告知ポスターを院内掲示してから。『伊藤先生のラジオ聞いたよ！』と患者さんからの反響が直接届くようになり、

済生会有田医療福祉センター 伊藤孝一 院長
和歌山放送ラジオ「WBSラジオ健康相談」に出演！

テーマ
「C型肝炎の最新治療
—まだ未治療の方が多く—」

放送日時

9/19 (月)	基12:10～	C型肝炎の最新治療について
9/20 (火)	基12:10～	C型肝炎の経過や発ガンについて
9/21 (水)	基12:10～	治療薬の革命的進歩
9/22 (木)	基12:10～	C型肝炎治療補助費等を利用しましょう
9/23 (金)	基12:10～	C型肝炎以外の肝臓病の注目点は？

再放送 9/28(月) ～ 9/29(金) 朝10:00～




今年9月のラジオ出演告知ポスター

手応えを感じています」この経験で広報の大切さを改めて感じたという伊藤総長は、済生会広報委員長の立場から、済生会のすべての施設が広報委員会と広報官を置いてほしいと訴えます。「委員や広報官になると、広報活動に対する使命感が目覚めます。それが広報の第一歩になる」

筆者も、済生記者で広報官。地域と施設をつなぐ大切な役割があると再認識し、使命感を持ち広報活動を展開していきま